

「第20回卒業式にあたって」

式辞の一部

時間は一定のリズムで刻まれていくのに、時に短く、時に長く感じるものです。卒業生の皆さんにとって、この三年間はどうか。

卒業にあたり、二つのこととお話しします。一つは先日の予行の折に全校生徒に話したことの続きです。この卒業式は、保護者の方にとっても義務教育からの卒業という話をしました。それだけ中学校の卒業式は卒業生にとっても保護者の皆様にとっても大きな意味があります。でも、ここにご臨席いただいている保護者の皆様は、義務教育、わが子の教育が義務だと思っている人はいないと確信します。保護者の皆様は卒業生の皆さんを愛し、いとおしく思い、皆さんの幸せを願って学校に送り出してくれたのです。義務ではなく愛情現れだったと思います。私も保護者の皆様と話す機会がありましたが、感じるのは保護者の皆様がお子様をいかに大切に思っているかです。深い愛情で育てられた皆さんはとても幸せだと思います。

もう一つは、この学校の教育スローガンの一つ「前進と挑戦」です。若い皆さんは、常に前を向いて、様々なことに挑戦し、社会の一員としての役割を果たしてほしいと願います。ただ、ときには苦しいこと、辛いこともあるでしょう。そんなときは「前進」だけが全てとはいいません。時には「後退」があってもいい。挑戦する気持ちが弱くなったら立ち止まればいい。本当に大切なことは自分が社会人として自立したとき、自分としてどう生きるか、どう生きたいかという思いを常に持ち続けること。それがその人の原点で、それが人生のめざすべきものです。自分の生き方に迷ったら原点に戻って考えてください。

中学校生活のカウントダウンは終わりを迎えようとしています。改めて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう。先ほど皆さん一人ひとりに手渡した卒業証書は、皆さんの努力の証です。緊張しながらも卒業証書を受け取ったときに見せてくれた笑顔は、忘れることはできません。私もこの学校でのすべての出会いに感謝します。

最後になりましたが、ここにいる八十四名の卒業生に輝かしい未来が待っていることを、保護者の皆様と共に祈りいたします。

3月20日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 360の約数のうち、5の倍数はいくつありますか。また、その数の和はいくつになりますか。